



りっしゅん

立春（3日）… 節分に豆をまき、鬼を追い払うと春がやって来ます …

今年は2月2日が節分、3日が立春というとても珍しい暦となりました。124年ぶりだそうです。まだ肌寒い日が続く中でも、あちらこちらに春を告げる命の営みを見付けることができます。皆さんも春を探してみませんか。

## <東風解凍 はるかぜ こおりをとく 2月3日～7日>

立春の初候は「東風解凍」です。菅原道真の句、「東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」は有名ですね。一般に「東風」は「こち」と読みますが、七十二候では「はるかぜ」と読むそうです。

## <春から始まる一年>

日本は、春・夏・秋・冬の四季の移り変わりがはっきりと分かる気候風土に恵まれています。それだけでも豊かで有り難いことだと思います。その四季を6つずつに分けた暦が二十四節気、さらにそれを3つに分けたものが七十二候です。立春は一年の始まりでもあり、立春の初候である「東風解凍」は、七十二候の第一候となるそうです。

## <鬼は外、福は内！>

冬の寒さや災いを鬼に見立てて、豆をまいてそれを追い払うのが、節分の豆まきです。幼稚園にも、どこからか鬼が現れましたが、子どもたちが豆をまいて追い払うことができ、穏やかな春が訪れそうです。今までは豆まきの後、年の数だけ豆を食べていましたが、のどに詰まらせる事故が多発しているということで、取り止めました。この件は今後ご家庭でもお気を付けください。鬼が去った園庭に散らばった豆は、子どもたちが一生懸命拾って片付けました。

## <ザクロの中は一体どうなっている？>

1月末、年長児が枝に残っていたザクロの実を採りました。高い所にある実は、最後には柿の実を採った高枝切りバサミを思い出して、先生に採ってもらいましたが、それまでの試行錯誤や協力する様子はさすが年長児です。食べることは諦めていましたが、中がどうなっているのかを知りたい意欲が満々です。採った実を机に叩き付けたり、つぶしたりしながらたくさん発見をしていました。この知りたい！という意欲をもって自分で働き掛ける姿勢こそが、これからの社会に求められる学びの基礎なのです。



園庭の梅の枝にも、つぼみが…



かえでの木の陰にいるのは、鬼!?



豆まきの片付けも、もちろん自分たちで



ザクロを採って中の様子を見てみたい



園内研でも講師の大竹先生に自然との関わりについて思いを語る



ザクロを割ってみた様子はすぐにドキュメンテーションで紹介



中身確かめたい！割りたい！ダイナミックな試行錯誤！！